

TOBA

中部はひとつ ONE CHUBU

第7回号

鳥取県議会議員

鳥羽 喜一

— とば きいち —

活動報告書

地域作りにおいての要望がございましたら、
鳥羽喜一までお気軽にご相談ください。
皆様のご相談をお待ちしております。

Facebook、Instagram、X、ホームページでも情報を発信中!



鳥取県議会 録画



Facebook



Instagram



X



きいちブログ

鳥羽 喜一
(とば きいち)
連絡先

TEL 090-4149-6927

〒682-0886 倉吉市大正町 1078-3

✉ kiichi.toba@gmail.com

KIICHI

ご挨拶

この度の金沢県能登地方を震源とする地震の被害にあわれました方々に、心よりお見舞いを申し上げます。

昨年の統一地方選挙から、約1年が経ちます。

「素直に謙虚に常に挑戦者たれ」

これは、私が高校時代に所属していた硬式野球部のグラウンドのベンチに大きく掲げられていた言葉ですが、「議員になって人が変わった」と言われぬように、この言葉を忘れず、ひたむきに皆さまの声を集めて、県政に活かして参ります。

議会においては、農林水産商工常任委員会に所属し、副委員長を務めさせていただいております。農林水産商工常任委員会では、倉吉市の基幹産業である農林水産業の振興や昨今の物価高騰を受けた事業者への支援金の策定や企業誘致等を管轄しております。また、議会だより作成のための広報委員会にも所属しており、議会での活動を倉吉の皆さまにしっかりとお伝えできるよう取り組んでおります。

最後になりますが、地域作りにおいての要望がございましたら、鳥羽喜一までお気軽にご相談ください。皆様のご相談をお待ちしております。

鳥羽 喜一
(とば きいち)
連絡先

TEL 090-4149-6927
〒682-0886 倉吉市大正町1078-3
kiichi.toba@gmail.com



プロフィール

愛児園、倉吉幼稚園、成徳小、鳥取大学附属中、倉吉東高、早稲田大商学部、東京海上日動火災保険、リクルート、慶應義塾大学大学院 MBA、倉吉市議会議員



鳥取県議会 録画



きいちブログ

Facebook、
Instagram、X、
ホームページでも
情報を発信中!



5月定例会一般質問



鳥羽 喜一

安心して子育てができる医療体制の構築についての質問 (小児医療費無償化の課題とクリニック開業の補助金制度創出の提案)

小児医療費無償化は、子育て環境を充実させるために効果的な取り組みであるが、コンビニ受診^{※1}が増加するという実証実験・統計データ(ゼロ価格効果の発生^{※2})もあり、中部地区においては小児科クリニックがない地域もある中において、医療の逼迫を招く可能性がある。また、従前より、特に中山間地域において地域医療の脆弱性が存在している。北栄町のクリニック誘致のための補助金制度を参考にしながら、鳥取県独自のクリニック誘致のための制度設計を検討できないか。

※1 緊急度が低い軽症患者が緊急外来に受診すること。

※2 無料になると需要が大きく伸びる現象のこと。



答弁(知事)

医師会や薬剤師会、歯科医師会を交えて小児医療費無償化についてのワーキンググループを発足させ、医療の逼迫を招かないよう対策を更に強化していく。人口当たりの小児科医の数自体は全国で最も多いが、地域によって偏在しており、特に中山間地域においては医師の確保は課題である。医師不足解消のための政策を、来年度当初予算に考えていきたい。

実現!



2024年度の当初予算に、地域医療維持の支援として、市町村の医師体制確保のための取り組みについての予算20,000千円がつけられ、市町村主体による医療体制の充実のための取り組みが進めやすくなりました。



鳥羽 喜一

中部の県立高校の現状について (中部の高校の定員割れと倉吉東高校バカロレア)の質問

中部圏域の生徒が東西部の高校進学で流出(昨年度は100人を優に超える生徒が中部から東西部に進学)をしており、中部の高校の定員割れが続いている(過去2年では全ての中部の高校が定員割れを起こしている)。この現状をどのように捉えるか。

また、中部の高校の起爆剤の一つが倉吉東高校のバカロレア^{※3}であると考え、海外大学への進学の学費が家計に与える影響は大きい。県としても、発意ある海外大学への進学を希望する生徒への奨学金を創出するべきであると考えが如何か。

※3 鳥取県が倉吉東高校に新たに設置した、海外大学の受験資格を得ることの出来るプログラムを含んだ教育課程。



答弁(教育長)

中部の高校の空洞化を非常に危惧している。中学校との連携をより強固にしながら、地域の中学生や保護者に県立高校の存在意義を伝えられるよう、肝に銘じて取り組んでいく。現時点ではバカロレアにおける海外大学進学のための奨学金創設は難しいと考えるが、既存の奨学金の情報提供をしっかりと行いながら、経済的支援についても学校とも協議をしていく。

9月定例会一般質問

Q 人口減少社会における県中部1市4町の協力体制についての質問

鳥羽 喜一

今後人口減少が進んでいく中で、県中部は同じ生活圏・経済圏にも関わらず、各基礎自治体が独立にその機能を重複しながら行政活動を行っており、より広域での合併がなされた東西部と比較すると非効率な状態が続いている。広域連合組織（中部ふるさと広域連合）を強化させることで、下水道の広域化など、人口減少社会に対応した筋肉質な組織を構築することはできないか。

A

答弁(知事)

うまくいけば、下水道の広域化は来年度には具体的な検討に入っていくことになる。地方自治として、県は市町村の後見役という立場ではあるが、この問題意識を受けて協議の促進を図っていく。

Q 戦略的な大型の企業誘致についての質問

鳥羽 喜一

既存の企業誘致で行うような補助金のラインナップの提案というものを大きく超えた、鳥取県の外部環境、内部環境、そして、将来の鳥取県の未来図に照らし合わせながら、誘致企業をターゲットングし、JETROや経産省、外務省あるいは世界各国に根を生やす総合商社といった利害関係者を巻き込みながら、提案先の課題に極力寄り添った形での工場団地の整備や補助金の制度設計の再構築も視野に入れながらの、オーダーメイドでの戦略的企業誘致を行うことはできないか。

A

答弁(知事)

モリタ製作所やグッドスマイルカンパニー等、取組の成果が出ている例もあるが、今日のご質問を我々もしっかり受け止めて、視野も広く戦略的な立地を進めてまいりたい。

Q 県立美術館についての質問

鳥羽 喜一

令和7年開館予定の鳥取県立美術館は、従来の役割である文化財行政という立ち位置だけでなく、観光などの交流人口拡大に寄与する施設として期待されている。既存の教育委員会内に美術館整備局を配置するのではなく、知事部局の観光戦略を指揮する部署に配置するべきであると考えているが、いかがか。

A

答弁(教育長)

県立美術館は、芸術振興が大きな本命の目的であるが、将来的にはこの鳥取県の言わば中核となる観光振興・地域振興の拠点になっていく施設であり、知事部局との連携は必要不可欠である。単なる文化芸術の視点だけではない形で、この県立美術館が大きな存在価値、意義を示せるように取り組んでまいりたい。

A

答弁(知事)

タブーを恐れずに検討をしていく時期に入った。新年度に向けてどういう組織の在り方がいいのか、真剣に検討させていただきたい。

実現!

2024年度の組織体制では、文化振興や観光振興との一体化を図るため、美術館を現状の教育委員会から知事部局に移管され、これまでの文化財行政の枠組みを超え、より観光目線での美術館の運営がなされることになりました。

11月議会一般質問

Q 関金廃線跡の整備についての質問

鳥羽 喜一

「日本一美しい廃線跡」として注目を浴びつつある関金廃線跡の竹林部分は、駐車場やトイレとの距離が近く、地域の方々には温かく見守っていただいている一方で、迷惑駐車が散見されるなど、地元の方からもトイレや駐車場の設置要望がある。廃線跡部分は鳥取県の県有地であり、本県の観光の柱として育てていく、市の取組を見守っていくという意味で、観光地としてのトイレや駐車場等のハード面整備を市と協同して進めていくことはできないか。

A

答弁(知事)

倉吉市と話し合いを行い、関金廃線跡を活用していけるようにしていきたい。

実現!

この答弁を受けて、広田市長と関金廃線跡の整備について意見交換をいたしました。

Q 宇宙産業の創出についての質問

鳥羽 喜一

本県は鳥取砂丘における「ルナテラス」オープンなど宇宙産業の創出に向け、日本を代表する取組を進めているが、県内企業の活性化や若者の雇用創出にはまだまだ伸び代がある。打開策として、宇宙分野における地域産業、若者雇用の創出を加速させるため、鳥取大学での宇宙関連人材の育成、研究開発を強化することはできないか。

A

答弁(知事)

宇宙ビジネスが育っていく時代に入っている。一朝一夕というわけにはいかないが、鳥取大学とよく協議して、共同事業や人材育成の学科再編といった話をしていきたい。

Q 高校の部活動と魅力化についての質問

鳥羽 喜一

部活動という軸によって志望高校を選択する生徒が増えていると学校へのヒアリングにてお聞きをしている。一方で、公立高校は人事異動があることで、長期的な部活動運営を行うことが極めて難しい環境にあり、部活動の「流行り廃り」が起きてしまうことで、部活動による学校のブランディングが出来ない状況にある。人事異動、指導教員の後継者の育成、あるいは高校教員の部活指導者枠の採用を含めた部活動に配慮した形で行われる学校体制を構築することはできないか。また、鳥取県において先進的に導入した「特色入試制度^{※4}」を部活動に熱心に取り組む生徒に、より多様な選択肢を提示する役割を担わせると同時に、部活動を学校の魅力化の切り口とするための推進力にすることはできないか。

※4 各高校が重視する観点や審査項目など、独自の基準で選抜を行う入試試験のこと

A

答弁(知事)

令和8年以降の高校の在り方を検討している中で、部活動をさらに前面に打ち出していくような学校があってもいいと考えており、部活動を学校の特色化として前面に打ち出すことに異論はない。また、特色入試においては、学校の特色化、魅力化を進めていく上で部活動は十分な切り口であり、生徒を引き付けるような制度にしていきたい。

11月議会一般質問

Q

鳥羽 喜一

鳥取中央育英高校の定員削減の猶予についての質問

鳥取中央育英は、今年春に行われる高校入試において定員の3分の2に志願者が満たない場合、1クラスの定員削減がなされるということを教育委員会は示した。鳥取中央育英は平成30年と比べると約100人、たった5年間でおよそ3クラス分が減少しており、昨年4月に既に1クラス定員削減がなされたところであり、もし仮に今年定員削減となればあまりにも対応が性急であると言わざるを得ず、地域においてもネガティブな影響を及ぼす可能性がある。北栄町も高校魅力化専門員を新たに採用するなど、学校の魅力化も緒に就いたところであり、学校の魅力化は長期的な視点に立って粘り強く取り組むべきである。これらの状況を踏まえ、定員削減の猶予をご検討いただけないか。

A

答弁(教育長)

近年、中部地区の全体数は減少していない中で、中央育英だけが急激な減少になっており、予測がつかない状況になっている。この状況も踏まえれば、慎重に見極めていくことは必要である。現行規定に基づけば、その削減対象になり得るものが、実際に定員削減を実施していくかどうかは慎重に検討してまいりたい。

実現!

2024年度において、学生寮の検討のための費用が予算化された他、鳥取中央育英において、育英スポーツアカデミーが開講され、魅力ある高校づくりに繋がりました。



その他の活動

関金廃線跡のライトアップ



所属している倉吉青年会議所にて、関金廃線跡のライトアップイベントを企画・運営致しました。予定していた330 枠を上回る予約を頂き、増枠分を含めて 400 枠全て完売となり、大変好評を頂きました。人口減少に伴って、交流人口拡大のためには倉吉の潜在能力を最大限に発揮させる必要があります。今後も、議員活動のみならず、地域活動においても、地域の魅力の再発見と磨き上げに励んで参ります。

バス通りの運搬除雪



倉吉市議会議員時代の一般質問での提案(2022年9月議会)が、本年2023年1月大雪時の運搬除雪(トラクターショベル等でトラックに雪を載せ、雪捨て場に捨てる方式)に繋がりました。バス通りは、他の道路に比べて車道・歩道が極めて狭く、除雪が非常に困難な場所でありましたが、倉吉市と県の連携により、県内ではこれまでに類を見ない方法での除雪が行われ、従来よりも短時間で交通障害を解消することが出来ました。

エスコートゾーン(横断歩道点字ライン)の設置



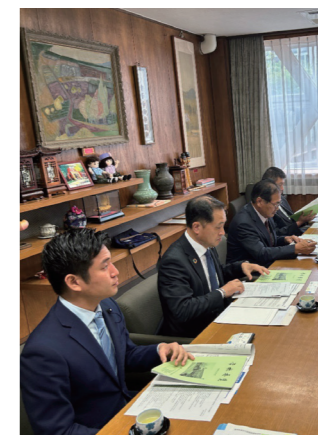
倉吉市社会福祉協議会前の福吉町の交差点は、目が見えない・見えにくい方にとって非常に歩きにくい交差点であると相談があり、鳥取県視覚障がい者支援センターとともに要望し、エスコートゾーン(横断歩道点字ライン)の設置を行うことが出来ました。

鳥取短期大学の教授と鳥取県の子育て環境について意見交換会



鳥取短期大学の國本教授と、倉吉市市会議員とともに、鳥取県・倉吉市の保育の課題(離職率や保育学科の定員割れ等)について意見交換を致しました。保育士を志す学生の減少や早期離職率が高まっていることなどをお伺いし、処遇改善など国に要望が必要な項目も多く、市・県・国の太いパイプが地域の課題解決においても必要であると痛感致しました。

鳥取県中部地区の学校へのヒアリング



県中部の高校の生徒数が減少している状況を踏まえ、中部選出の議員と共に、県立高校5校と私立高校1校、中学校5校を訪問し、魅力化についての県・市町との教育委員会との連携や中学校の進路指導の状況等についてヒアリングを行いました。現場における課題を踏まえ、議会に活かして参ります。

倉吉総合産業高等学校野球部グラウンドの浸水



総産野球部のグラウンドが隣の水路(市有地)から水が染み出ることにより、時には外野グラウンド一面が浸水するなど練習に支障が出るほどの被害が出ておりました。倉吉市と連携し、この水路の補修を行うことで、浸水被害を解決することが出来ました。

NPO法人未来でのトークセッション参加



2024年で20周年を迎えるNPO法人未来の例会にて、入江県議と一緒に「鳥取中部の未来づくり」というテーマでトークセッションに参加をさせていただきました。中部の県立高校の再興、地域医療、県立美術館等をテーマにお話をいたしました。私も会員の一人として、「口だけでなく自ら動く」をモットーに地域のために活動いたします!

鳥取県立美術館のフォーラムに参加



県立美術館のフォーラムに登壇させて頂き「美術館経営」というテーマで、館長予定者の尾崎さん、PFI事業者のマネージャーである赤尾さんにご発言致しました。財源が限られている地方の美術館だからこそ、「尖った」ポジショニングが集客には必要であり、館長の強いリーダーシップのもとによる学芸員とスタッフの強い理念共有が必要であることを「経営学の観点」でお話致しました。



関金廃線跡竹林ライトアップの様子



倉吉東高へのヒアリングの様子



倉吉銀座商店街の祭り様子